OT　置敷き帯電防止ビニル床タイル 施工説明

■基本手順

1 環境・下地の確認 → 2 清掃 → 3 下地の補修 → 4 接着剤の選択・塗布 → 5 貼り付け → 6 圧着 → 7 養生

■OTの施工

1.環境・下地の確認

施工時の環境(湿気・温度)を確認してください。
下地がモルタル下地の場合、十分に乾燥しているかを確認してください。
※下地の水分レベルはグレードI(水分計HI-540のDモードで440未満)としてください。
合板下地の場合、釘止めで、釘頭はよく打ちこんであることを確認してください。下地のたわみや段差がないか確認してください。
砂や塵、埃などを除去し、適切な下地処理を行い、平滑で良く乾燥し、強固であることを確認してください。下地に不陸や隙間(フローリングの目地隙など)がある状態で施工すると、施工後にタイルの表面に不陸や隙の形状が陰影として映ることがあります。
貼り替えの場合、下地に残った接着剤はきれいに除去、または下地補修材で平滑に仕上げてください。
二重床の場合、下地パネルの段差は1mm以内・隙間は2mm以内に調整し、下地パネルがしっかりと固定されて動かないこと、たわまないことを確認してください。パネルの表面は凹凸の無いものを使用してください。
下地パネルの種類や表面形状によってはOTの施工に適さない場合があります。

下地OAフロアに関して

> 固定式ではないOAフロアの場合、下地パネル自体が歩行や温度変化で動く場合があります。
> 下地が動くことでタイルの突き上げや反り、目地隙やズレに繋がる場合があります。
> 表面形状がフラットではなく凹凸があり、またメッシュ形状になっているなど、OTと接する面積が少ないOAフロアの場合、接着力が不足し接着不良に繋がる場合があります。
> OAフロアの表面形状によってはタイル表面に陰影が浮き出る場合があります。

2.清掃

床が汚れ・ゴミ・塵などは接着剤の効力を弱め、クレームの原因に繋がるため、清掃をしっかりと行ってください。

3.下地の補修

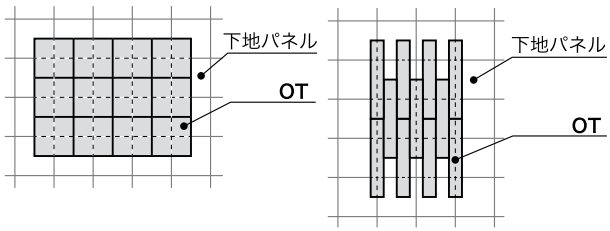
下地の確認を行った時点で、下地の亀裂や平滑でない部分は、床用の下地調整材で補修してください。

4.接着剤の選択・塗布(置き敷き工法の場合)

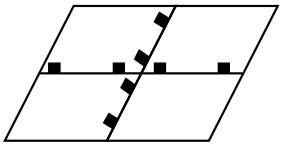
モルタルの場合:GT(BB-611・612)、GTS(BB-558・588)
塗布量の目安は80g/㎡です。
二重床の場合:GT(BB-611・612)、GTS(BB-558・588)
塗布量の目安は40g/㎡～80g/㎡です。
※接着剤塗布時は、スポンジローラー(中毛タイプ)を使用して下地全面に塗布してください。オープンタイムは接着剤が半透明になるまでお待ちください。塗布量が少ないと、施工後に突き上げや目隙の原因となります。下地の吸水性や表面形状、歩行頻度に応じて塗布量を増やすなど調整してください。

5.貼り付け

室温にタイルを馴染ませてから低温時は『ゆるめ』に施工してください。
タイルの詰めすぎは突上げの原因になりますので避けてください。
二重床の場合は1/2ずらし施工(馬がけ施工)を行ってください。



15℃以下での施工の場合、同梱のスペーサーを切り取って使用してください。(目地の幅が等間隔となり、施工中のズレの防止にも役立ちます。)



タイル断面を斜めに切ると後日突上げる事がありますので垂直にカットしてください。

6.圧着

ポンドローラーでの圧着時にスペーサーを外してください。
スペーサーを外すタイミングが早いと、タイルがズレてしまう場合がありますので注意してください。

7.養生

施工直後は、タイルの上をできるだけ通行しないようにするか、通気性のあるシートで表面を覆い、汚れが付かないようにしてください。通気性のないシートは使用しないでください。
直射日光が当る場所では、カーテンなどで必ず日除けをしてください。急激な温度変化によって、目地の突き上げや、表面の変退色が起こることがあります。

■注意事項

施工場所

サーバールームなどの高い電気性能を要する場所での使用はお避けください。

施工前の商品養生

箱から出して積み重ね(最大10ケースまで)、平坦な場所で24時間以上室温に馴染ませてください。

保管場所

高温場所(50℃以上)での保管はお避けください。

施工環境

施工環境温度は15℃以上を保ってください。